

みどりの基本計画の策定に向けた課題の整理

1 みどりに係る政策動向

a. 生物多様性保全に関わる国内外の潮流

国連生物多様性条約第15 回締約国会議 COP15(R3-R4) 世界目標

ネイチャーポジティブ
遅くとも2030年までに生物多様性の損失を反転させ回復させる

30by30
2030年までに国土の30%以上を自然環境エリアとして保全

OECM
(保護地域以外で生物多様性保全に資する地域)
例) 里地里山、社寺林、企業緑地、公園緑地、ナショナルトラスト等
→ 自然共生サイトの認定により30%に組み込む取組み(R5~)

基本戦略2:NbS(自然を活用した解決策) ≡ グリーンインフラ
EbA(生態系を活用した気候変動適応策)
Eco-DRR(生態系を活用した防災・減災)

b. 都市緑地法改正(R6)

- 必要性**
- 気候変動対応、生物多様性確保、Well-being向上等の課題解決に向けた緑地機能に対する期待
 - 環境分野への民間投資の気運拡大
 - 質・量両面での都市緑地の確保に取り組む必要
 - 地方公共団体において財政的制約や緑地の整備・管理に係るノウハウ不足等

- 概要**
- 1) 戦略的な都市緑地の確保
 - 緑地の保全等に関する国の基本方針の策定
 - 県による広域計画策定
 - 都市計画を定める際の基準「自然的環境の整備又は保全の重要性」の位置づけ
 - 2) 貴重な都市緑地の積極的な保全・更新
 - 緑地の機能の維持増進を図るために行う再生・整備を「機能維持増進事業」として創設
 - 緑地の買入れ代行に係る制度創設
 - 3) 緑と調和した都市環境整備への民間投資の呼び込み

c. 都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言(R4)

- 都市公園新時代に向けた重点戦略~3つの戦略と7つの取組~
- 新たな価値創出や社会課題解決に向けたまちづくりの場とする**
- 重点戦略** ①グリーンインフラとしての保全・利活用
【1】 ②居心地が良く、誰もが安全・安心で、快適に過ごせる空間づくり
- しなやかに使いこなす仕組みをととのえる**
- 重点戦略** ③利用ルールの弾力化
【2】 ④社会実験の場としての利活用
- 管理運営の担い手を広げ・つなぎ・育てる**
- 重点戦略** ⑤担い手の拡大と共創
【3】 ⑥自主性・自立性の向上
- ⑦公園DXの推進

2 都市特性

都心から約20km
交通利便性の高い
住みよいまち

朝霞らしい郷土の風景
武蔵野の面影を感じさせる
豊かなみどりや水辺

3 みどりの現況

(1) みどりの面積の推移

- 人口増加や都市化の進展によりみどりの量が減少
- 特に農地は確実に減少傾向
- 近年、公共施設以外等の樹林樹木が増加傾向。樹木の成長や市民の緑化意識の高まりに起因か

(2) 緑地の総面積

	面積	緑地率
市街化区域	107ha	10.0%
市域	395ha	21.5%

4 グリーンインフラの多面的効用に係る解析

水害抑制 都市の気温 炭素 地域生態系 郷土景観 農協活動 健康増進 身近な にぎわい 防災機能
湧水涵養 上昇の緩和 固定 の保全 の保全 の場 の場 遊び場 創出空間 充足

みどりの健全性評価

- 樹林地や農地等は水害抑制や都市の気温上昇抑制など重要なはたらきを有す
- 斜面林の一部では保全策が講じられていない場所がある
- 緑地として担保された場所でも、十分な管理ができず、グリーンインフラとしての機能が十分発揮できていない空間もある
- 市街地では立地条件に即したグリーンインフラのはたらき向上策の検討が必要

みどりの必要性評価

- 身近なレクリエーション空間や避難のためのオープンスペースが不足しているエリアが存在する
- 河川空間は都市公園を補完するレクリエーションの場として重要な役割を果たしている
- 都市公園に加え、河川や道路空間などを効果的に組み合わせ市民ニーズに応えることが重要

5 現行計画の取り組み

(1) 目標達成状況

【みどりの目標】 未達見込み

緑被率	現行目標 (2025年度)	現況値 (2023年度)
市街化区域	28%	18.7%
調整区域	37%	34.8%

【都市公園等の目標】 未達見込み

1人あたり面積	現行目標 (2025年度)	現況値 (2023年度)
都市公園	3.6 m ² /人	2.1 m ² /人
公共施設緑地	6.8 m ² /人	7.4 m ² /人
都市公園等	10.4 m ² /人	9.5 m ² /人

※公共施設緑地は目標を達成

(2) 現行計画の主な成果

- 市民参加型の生き物調査
- 生き物マップの作成公表
- じゃがいも掘り等の農業体験実施
- 花の池テラスの整備
- 朝霞の森の市民参加による管理運営
- シンボルロードの整備
- アサカストリートテラスの開催
- グリーントレイルマップの作成
- プレーパークキャラバンの開催
- まちなかベンチの設置
- 都市公園施設長寿命化対策工事実施
- 健康遊具の設置等

6 市民アンケート調査

みどりの満足度	豊かで魅力的と評価される一方で、レクリエーションや避難地としての評価は低い。特に高齢者や特定地域での満足度が課題
将来に残したいみどり	朝霞の森や黒目川などの次世代への継承が重要
公園の利用頻度	南部地域での利用が多く、内間木地域での利用が少ない。子育て世代の利用が多い
公園の評価	北部地域と西部地域での評価が低く、改善が必要
重要な施策	歩道空間の整備や小規模な公園の充実
緑化活動の参加	自宅の庭の緑化や道路の清掃活動への参加実績が多い。今後のニーズとして、市民農園が人気
グリーンインフラの認知度	CO2の吸収や都市の気温上昇の緩和が上位
みどりはたらきへの期待	温暖化対策、水害等自然災害の軽減が上位
市民意見	公園や遊歩道の整備、学校教育での緑の大切さの学習

(1) 現状の認識 ※関連項目について左段落の見出しセルの色を着色

武蔵野のおもかげをかたちづくる斜面林・農地・湧水・川① → 残された樹林地や湧水環境等のみどりについて持続性を確保したい④

都市化の進展により、みどりは減少傾向② → 黒目川や基地跡地など、次世代への継承を期待⑤

都市緑地の保全に係る新たな制度や取組み③ → みどりははたらきを高める手法(配置や質)や維持管理の方法を検討し展開したい⑨

温暖化対策や水害抑制などグリーンインフラの機能発揮に期待⑥ → みどりを生かしたまちづくりを普及させるための学習機会の充実を図りたい⑩

まちづくりや地域の課題解決に対するグリーンインフラへの期待の高まり⑦ → 担い手を広げ・つなぎ・育てる仕組みを充実させたい⑪

公共空間のみどりの維持管理は質の改善と持続性の確保が必要⑧ → 公共空間の柔軟な活用や連携、民間活力の導入、農地の活用等多様な手法も検討したい⑮

身近なレクリエーション空間等の不足域が存在⑫ → 歩行空間の整備や身近な遊び場の整備に期待⑬

自然や農とのふれあい機会に一定のニーズ⑭

(2) 課題の整理 ※「(1) 現状の認識」関連項目を○数字で表示

- みどりが持つ多様な機能(水害抑制、湧水涵養、地域生態系の保全、ヒートアイランド現象の緩和等)を活かして、まちづくりや地域の課題に対応することが必要⑥⑦⑧⑨
- みどり(樹林地、樹木、農地、湧水など)の減少を抑制し、保全することが必要①②③④
- 身近なレクリエーション空間を充実させることが必要⑫⑮
- 朝霞らしい魅力的なみどりをさらに充実させることが必要⑤⑮
- 公園以外のみどりの空間をネットワークさせ、レクリエーションや体力増進、みどりに親しむ場を充実させることが必要⑬⑭
- 公共施設の緑化に努めることが必要⑧⑫⑬
- 民有地の緑化を促進することが必要⑦
- 公共施設や道路における植栽、保全緑地の樹林について、適切な維持管理や更新が必要⑨
- みどりの質の向上を誘導し、評価する仕組みを検討する必要がある⑨⑩
- みどりに対する関心が高まることが重要⑩
- 関心を持った市民・事業者等が、気軽に活動に参加できるようなきっかけづくりが必要⑪⑮
- 多様な主体が参加し、連携・協働しながら、公園緑地の利活用の促進を図ることが必要⑪
- 朝霞のみどりを生かしたライフスタイルを内外にアピールすることが必要⑮⑭
- 地域に根づく都市公園として利活用促進が必要⑪⑫⑬
- 農業体験や自然観察、ハイキングなど、自然とのふれあいの機会の充実が必要⑭

くらしを支える
みどりを整えること

市民力を高めること
みどりを支えること

緑のあるくらしを
楽しむこと

7 課題設定